



着陸料等の新料金体系及び割引制度を導入します

～仙台空港運営開始後初の着陸料等の改定を2017年4月1日に実施～

仙台国際空港株式会社は、2017年4月1日に改定する仙台空港の着陸料等の空港使用料金につきまして、本日国土交通省への届出を行いましたのでお知らせいたします。

今回の改定は、「エアラインと空港が協同して、旅客数・貨物量の増加を促進する」という当社の基本的な考え方に基づき、2016年7月の運営開始後初めて実施するものです。新しい料金体系では、旅客数に応じて変動する料金の割合を増やすなどにより、エアラインの需要変動リスクを軽減することを企図しております。また、エアラインの新規就航・増便を促進するための割引制度も併せて導入いたします（**新料金体系及び割引制度の概要につきましては添付資料をご参照ください**）。

仙台国際空港株式会社は、引き続き、地元自治体や経済・観光団体、各事業者の皆様と緊密に連携しながら、「東北の空を、世界の空へ」をスローガンに、東北を発着するお客様に一番に選ばれる空港を目指し、今後も航空ネットワークの拡充とお客様の満足度向上に努めてまいります。

以上

【仙台国際空港株式会社の概要】

- ・商号 仙台国際空港株式会社
- ・本店所在地 宮城県名取市下増田字南原無番地
- ・設立年月日 2015年11月2日
- ・事業目的 仙台空港の運営
- ・代表者 代表取締役社長 岩井 卓也
- ・議決権比率 東京急行電鉄株式会社 42%
前田建設工業株式会社 30%
豊田通商株式会社 16%
東急不動産株式会社 9%
株式会社東急エージェンシー・東急建設株式会社・株式会社東急コミュニティー各 1%

添付資料

新料金体系の概要

2017年3月24日



仙台国際空港

基本的な考え方

エアラインと空港の
「協働」



旅客数・貨物量の
「増加促進」



ポイント

料金施策

- 旅客数減少時には
エアラインの料金負担を軽減する料金体系
- 新規就航時等の**割引**制度

新料金体系のポイント ①

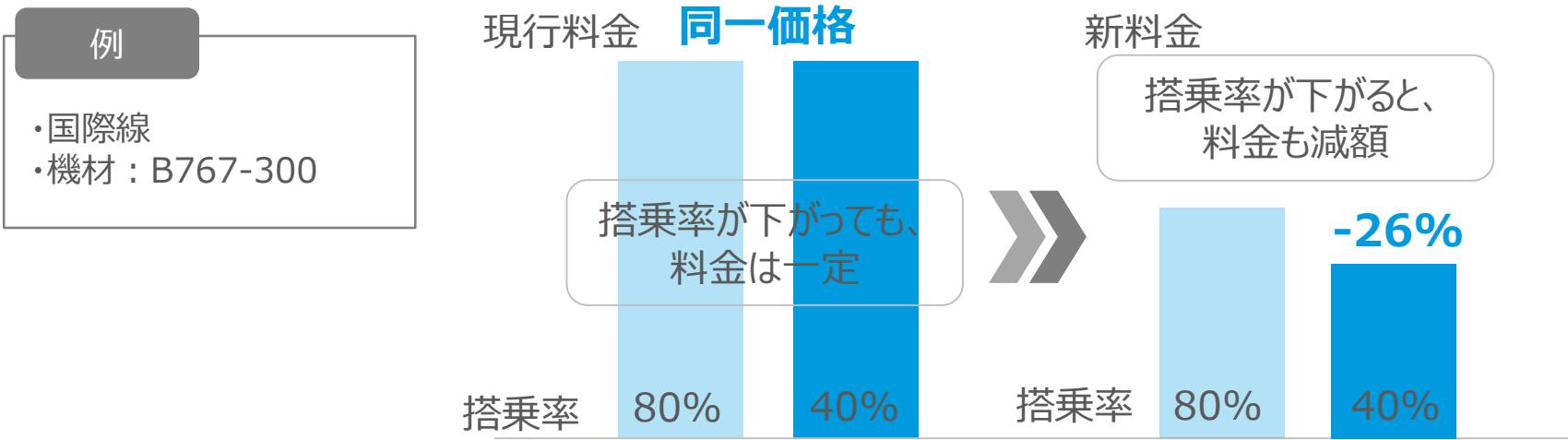
エアラインの需要変動リスクを軽減

空港使用料(着陸料・停留料・保安料)に占める旅客数連動の割合



※ 2016年7月の便数・旅客数の条件で試算した場合
※ 国内線・国際線の使用料合計の割合

搭乗率変動による着陸料の金額



機材の大型化・拠点化促進を図る

	現行料金(※1)	新料金のポイント
着陸料	重量比例	•国内線・国際線の料金を 同一化 • 大型機材 (※2)は小型機材より、1tあたりの 単価が減額
	騒音比例	•騒音値の増加に伴い、金額が連動 •騒音値による3段階の固定金額
	旅客数比例	•国内線にのみ設定 •国内線・ 国際線ともに 設定 •着陸料に占める旅客数分の 割合を増額
停留料	•停留開始3時間以降、課金	•夜間駐機・拠点化促進のため、停留開始 24時間 以内は無料
保安料(※3)	•すべての国管理空港で一律の料金	•仙台空港における対象コストと比較し、金額の見直し

※1 2017/3までは国管理空港の料金体系を引き継ぎ

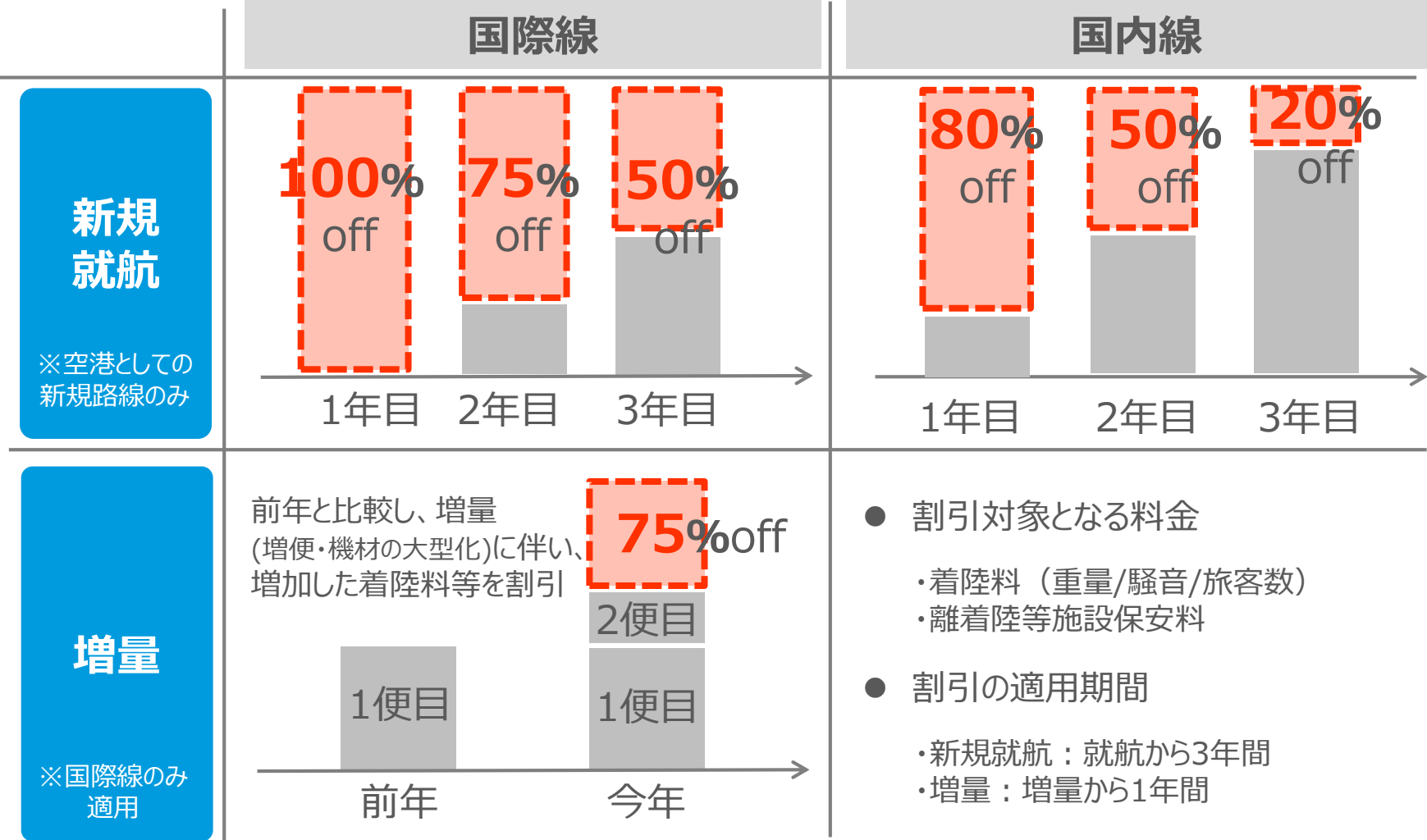
※2 最大離陸重量が150t以上の航空機

※3 新料金では、離着陸等施設保安料

着陸料等の割引制度

エアラインの新規就航・増便を促進する割引制度を導入

新規就航・増量等に対する割引制度



参考：現行料金と新料金の1便あたり着陸料比較

B767-300、国際線、搭乗率:60%の場合

単位：円

163,625

現行料金

47%減額

87,080

新料金

条件

- ・機材：B767-300
- ・最大離陸重量：146t
- ・騒音値：92EPNdB
- ・座席数：250席

※現行料金の金額は本則の料金に加え、特例も適用した料金です。

参考：新料金における搭乗率別1便あたり着陸料

B767-300、国際線の場合

単位：円

条件

- ・機材：B767-300
- ・最大離陸重量：146t
- ・騒音値：92EPNdB
- ・座席数：250席

